

令和3年度（第2回）北九州市公共事業評価に関する検討会議 議事録

日 時：令和3年12月14日（火）

10：50～11：40

場 所：北九州市福祉会館

（ウエルとばた）8階会議室

1 事業内容説明について

【再評価】北九州広域都市計画道路戸畑枝光線他街路事業

～事業課より資料5に基づき説明～

2 内部評価結果について

～事務局より資料7に基づき説明～

3 質疑応答について

○構成員

現地を見させていただきまして、この事業の重要性は、非常に認識しているところでございます。他方で、先程の説明でもありました通り、この事業費の増大については、丁寧な説明が必要なのだと思います。

つまり、実際に事業費が増えてしまっているものの、その間の社会情勢の変化に伴って、整備による効果自体も大きくなっているということ、強調して説明しておいたほうが良いと思っています。市民の方からすると、事業費が何百億円も増えたという数値に目が行きがちになってしまいます。そのため、B/Cが1.18から1.26になっていることなど、前回との比較も含めて提示した方が、事業費の増額について、市民の理解を得やすいのかなというふうに感じた次第です。

○座長

今の2点に尽きていると思います。効果は非常に大きいですが、その事業費の増大も大きいと、確かにB/Cは、結果としてプラスマイナスでプラスに振れているということですので、構成員がおっしゃった内容は、的確な指摘だと思います。それに関する議論が進んでいくと思いますので、ご対応の方をよろしくお願いします。

○構成員

かなり大きな額で増えているということで、市民の方に対してのインパクトがすごく大きいだろうと思います。そこで、計画時点でどこまで把握できていたのか、把握できていなかったのかも含めて、そういうところの説明も重要かと思います。

人件費とか資材価格とかにつきましても、他の公共事業でも同じように、その時点で把握が困難であったというところも、しっかりと説明をされたほうが良いと思います。

あと、このB/Cのところでは、走行時間短縮というのが、前回との差が284億円という数字で見えてしまうと、すごくここがコントロールされているような印象を持たれることもあろうかと思いますが、そういうところをきちんと説明をしていただきたいと思います。社会情勢の変化というところでこのプラス284億円というところにもなったのだらうと思いますが、そういうところで、市としては、先見の明があったという言い方が適切かどうか分かりませんが、やはりそう

いったことも見越して整備をしていくところは、ここを使って上手く説明できるのではないかなというふうに思います。

また、アウトレットとかの効果も入っていますが、市としてもこういった整備をしているということが、企業としては、立地しやすいというように繋がっているのだらうと思いますので、そういったところを使いながら、市が的確に行っているとか、まちづくりを計画的に行っているというところの説明の場にもなればいいのかというふうに思っています。

北九州市の面積も広いので、環状型になるということは、色んな面で有効的に使われるのではないかと考えています。

気になるところとしては、7ページ、8ページにあったかと思いますが、渋滞緩和とか、交通環境の改善というところが、市民にとっては肝になるかと思しますので、看板の付け方とか表示の仕方とかで運転手は結構、その選択を変えたりするというようなことになろうかと思しますので、こういった渋滞緩和や交通環境の改善に繋がるというところを、折々、チェックをしていただければというふうに思います。

○構成員

あともう1点は、この工事期間は、7年伸びるということで、この便益とかのところには色々入っていないと思いますが、結構、損失もあるかなと思います。工事について、特に今新しく作っているところは別ですけど、ランプとかで一緒に動かしながら作っていくような部分については、それによって、工事がある期間でちょっと渋滞が起こってしまうとか何かあるかもしれないので、そこら辺について、頭に置かれていると思いますけれども、ちょっと損失になるところも重要なというふうには思いました。

○構成員

私も環状道路は、やはり繋がらないと機能が発揮できないので、この事業自体は継続しなければならないというふうに思っております。

2点ほどお伺いしたいのですが、先ほどのアウトレットは、まだできてないので、それはB/CのBの方には入ってないですね。今からいろんなものが入って交通量が増えれば、そこでまたB/Cの交通量の計算が変わってくるということですよ。

●事業課

将来推計ですので、見込んでいます。

○構成員

入ってるんですね。はい。わかりました。

あともう1つ、19ページのところで、戸畑枝光線が令和5年で、牧山海岸線が令和6年ということで、令和5年に道路ができますが、ランプはどういうふうな供用の状況で、この1年間どうなっているのか教えていただきたい。

●事業課

戸畑枝光線の1期と同時に、ランプとして機能する汐井町牧山海岸線も供用開始します。

供用開始はしますが、その汐井町牧山海岸線に接続する付属の道路とか、今後維持管理するための確定測量とか、そういった業務が残りますので、その部分を見込んで、令和6年までとしています。

○構成員

交通機能的には令和5年で、大体完成形と思えばいいですかね。

●事業課

おっしゃる通りです。

○構成員

あとは、事業費が上がったっていうところです。これは今回に限りませんが、やはりもう少し基本設計をどうやって精度向上していくかっていうことは、大きな課題なんだろうなというふうには思います。

掘ってみるといろいろ分かったというのは、少し仕方がないというところもありますが、例えば36ページ、37ページについては、もう少し図面上で検討しておけば、工事の手順ですから、あらかじめ組み込んだのではないかなという感じもしますので、トータル含めてやっぱり基本設計の精度向上については、この事業に限らず、ちょっと検討課題かなというふうに思います。

○座長

大きなところの2本柱で、その事業費の増大については、市民においては、丁寧に説明する必要があるということと、それからやっぱり環状化の事業効果っていうのは福岡市の例を見ても分かりますが、ここは大きいと思うんですね。リスクの場合っていうこともありますので、その2つがやはり大きな部分なのかなっていうことで、そのプラスマイナスって言えば、役所内での内部評価と同じ事業継続という形になるだろうと思います。

ただやはり、公共事業評価委員会の役割としては、一応意見を述べる必要があると思いますので、重要な意見を言っておいたほうがいいかなっていうことはあるかと思います。

これちょっと述べておく必要があって、まず1点目は、構成員がおっしゃっていたように、基本設計の精度向上っていうのは、この事業だけに関わらず、他の事業もそうなんですね。

やはり、当初の予算規模をかなり上回ってくるというところがあって、最初の基本設計の精度向上に甘さがあるんじゃないかっていうのが、印象としてどうしてもあるんですね。

ですので、事前調査、ボーリング調査など、そこはやっぱりもう少し密度を上げていただきたいなっていうのはあります。

それから調査そのものの調査方法は、できるだけやっぱり最先端の調査方法を活用して、途中でどういったものがあるかっていうところは、できる範囲で、精度を高めていただきたいなっていうのがあります。

それによって、振り返ってみて増えたのはやむを得ないっていう話にはなるんですけども、事前に把握してそうなった場合と、事前に小さく見せて、後から出てくるのでは、ちょっと印象が違いますので、そこは市民への責任もありますので、正確さは大事にさせていただければということです。

そういう意味で言えば、仮設ランプの話は、最初はどういう扱いだったのかご説明願いたいと思います。当初あまり想定されていなかったのかどうか。

●事業課

経緯からご説明いたしますと、若戸大橋と都市高速道路をつなぐ既設ランプは、昭和57年、都市計画決定され、平成2年に供用開始されております。

そのあとに、戸畑枝光線は当時、戸畑大谷線と言っていましたが、戸畑枝光線や、若戸トンネルなどが、平成11年に、地下構造で都市計画決定されております。その時点で、供用されていたランプの形状を変える必要がある計画となっていました。そのまま現在に至っている状況でございます。

今回施工を見据えて、具体的な施工計画を立てまして、若戸大橋と都市高速道路2号線の交通を維持するというを前提に、仮設ランプが必要であるというふうな判断をしまして、今回増額に至ったという経緯でございます。

○座長

つまり、平成21年の段階ではこの仮設ランプの事業計上とかそういったものは特になかったということですか。

●事業課

支障になっているというのは、想定をしていましたが、施工計画が未定であったため、施工時に具体的にどうするのかっていうのが、立案できてなかったというところがございます。

○座長

そのあたりの時期にきちんと入れ込んでいく必要があったかと思います。その時に交通をストップして、一気にやってしまうのか。ただその交通を維持しながら、少しずつ改良していくのかっていうところの議論を、その時すでに終了している必要があったのだらうと思います。これは土質の問題ではないと思います。付け替えの話があるので、議論を先にやっておくべきだったのではないかと思います。そうすれば、この増額についてもここまで大きなものには特にならなかった気がします。

増額についてはもう1件ありまして、2期の方の事業費ですが、途中で見直しをかけてアップグレードですかね。金額についてですね、再検討をして、そういった作業っていうのはされなかったんでしょうか。

35ページを見ると、1期と違って、平成21年度との比較で増額分が出てきてますよね。

1期については、平成29年をベースにして、どれぐらい伸びたかを見てますよね。それで、数字全体として250億円増加するという話になっていきますけれども、数字の見せ方が変わってくる可能性があったのではないかと考えています。

●事業課

前回、平成30年3月に再評価しております。前回は、1期の期間延伸と増額。汐井町牧山海岸線の期間延伸と増額。2期については、期間の延伸だけを変更させてもらっています。

2期は事業が大きく進捗していなかったものですから、見込みということで期間の延伸だけをさせていただいたということになっています。

○座長

そこである程度予測、その当時の例えば人件費であるとか資材費とかをベースにして、ある程度の金額がもっと上がりますよっていうことを前倒してもよかったのかなという気はしております。

額が見た目で相当上がってくるので、社会情勢を反映した形で出していただければ、理解しやすいとは思うんですね。

●事業課

ご指摘の通り、詳細設計がその時期まだ、完了しなかったもので、具体的な施工計画等に基づく変更はできなかったものがございます。ただ座長がおっしゃるように、人件費のところは1度見直すきっかけであったかなとは思いますが。

○座長

最後に、コストをどうやって下げるかっていうところがあると思うんですけども、新工法や新技術の活用というのがありますが、旧来の素材を活用するっていう手もあると思います。新しいばかりじゃなくて、例えば格子板とか、大手のものを使わなくても、たぶん輸入品でやれると思うんですね。基本的に、工場（高張力鋼板）など高度のものは、技術が高いんで、それ相当のものを使わなくてはならないんですけど、土木関係だったらそこまでそのコア（ハイスペック）なのは、いらなと思います。例えば、輸入材の代替とかですね、いろんなつき合いとかあると思いますけども、できる範囲のところ、積み重ねてコストを下げてくださいいただいた方がいいのではないかと思います。内部評価の結果でも、新工法と新技術って書いていますけど、旧来のものも活用していただければと思います。

視察で、お話しした中で、埋め立てのところ、発泡スチロールは、コストが高いんで話ありましたが、まさにその通りだと思うんですね。旧来のものでも高いものを使わないで、レベルが高くて、ちょうどいい技術水準であったら、ぜひそちらの方に転換していただくという工夫をしていただきたい。内部ではそういった検討は、難しいかもしれませんが、検討会議から意見があったと言えば、言いやすいかなと思います。素材の見直しをきちんとやっていただければと思います。

●事業課

発注者側としては、製品やメーカー指定となるものはなかなかしづらいところ。汎用品であれば、市場に出回っているものを、受注者が調達するという形になりますので、そういった利点はあると思います。

○座長

そうですね。機会があれば言っていただければと思います。

●事業課

これだけ事業の規模が大きくなって、期間も長いので、コスト削減は小さな工夫の積み重ねだと思います。一気に削減するようなどころも必要ですが、小さい積み重ねもやっていきたいということです。

////////////////////////////////////

それではご意見をいただきましたので、ここで皆様の意思確認をしていきたいと思ひます。

構成員の皆様の一つ、確認しておきたいと思ひております。基本的に、当該事業をこの計画で進めていくことに対して、ご異議、ご意見等はございませんでしょうか。

(異議なし)

異議なしということよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、当該事業については、この計画どおり継続していくことを前提としたうえで、検討会議としての意見を整理しておきたいと思ひます。

////////////////////////////////////

1点目ですが、この事業自体は、環状化による効果が非常に大きいという認識がございますので、事業継続でよろしいかと思ひます。それは、B/Cが1を超えているということや、災害対策としてのレジリエンスを確保するという点でも非常に意義深いということですので、事業を継続してよろしいのではないかと思ひます。

2点目としては、その一方で、事業費が当初の金額よりも大幅に増額しているという点は、非常に検討会議としても気になるところではございますので、引き続きコストの削減等には注意を払っていただきたい。その際には、新技術・新工法だけではなく、既存の汎用品の選択であるとか既存の工法の見直しも含めて小さいものから積み重ねて、費用を縮減していただきたいと思います。

それから、3点目は、今後とも調査にあたっては、できるだけ詳細な調査を積み重ねていただいて、見通しがあまり狂わないように、対応していただければと思っております。

以上、3点について、このような意見を公共事業評価に関する検討会議の意見としたいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございました。

それでは具体的な記載内容につきましては、座長である私がお預かりしまして事務局と調整させていただきます。よろしいですかね。

(異議なし)

はい。それから、本日の会議資料に議事録については後日市のホームページに掲載することになりますが、議事録については私が事務局と調整させていただきたいと思います。

それでは今後の予定につきまして事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

ただいま構成員の皆様のご理解をご了承いただきましたとおり、北九州広域都市計画道路戸畑枝光線他街路事業につきましては、現計画のとおり事業を継続させていただきたいと思います。

今後の予定といたしましては、本日の検討会議の意見を踏まえまして、市が対応方針案を作成し、パブリックコメントの手続きに入らせていただきたいと思います。以上でございます。

○座長

ありがとうございました。

それではこれで本日の検討会議を終了したいと思います。皆さん、大変、お疲れ様でした。